

No. 990

新春の天皇御一家

新春のやわらかな日射しにつつまれた皇居。

今年で71才を迎えられる天皇陛下は、まだまだ元気で毎日を過されています。生物学者でもいらっしゃる陛下は去年、国民体育大会で鹿児島を訪れられ、その折採集された貝がらの標本づくりも専門の辞書をかたわらにしてすすんでいます。

浩宮、礼宮、紀宮の三人兄弟もそれぞれ大きくなられ、礼宮さまが小学校へ通学されるようになってから遊び相手のいなくなった紀宮さまは、去年秋から目黒のさる幼稚園へ通学。

コリントゲームに熱中のお孫さんたちを暖かく見守られる天皇陛下は、ほんとうによきおじいちゃんといったところ。幸せにあふれた天皇ご一家。

しかし、アメリカへの親善訪問も予定されている天皇陛下にとって、今年もまた、忙しい年のようです。

—郷土民芸—

間々田ひも

赤・青・紫など色とりどりの絹、羽二重の糸がからみあい、美しい絵模様を作り出す仕事場風景。

栃木県小山市間々田に住む、渡辺浅市さん（71才）は静かにひもを編む。

婦人の帯じめや、羽織のひもとして重宝がられる組ひも、渡辺さんは15才の時、手編みの手ほどきを受けた。手のところどころに出来た「糸ダコ」がこの道56年の年輪を感じさせる。

妻のアキさんと向い合って編む「正倉院・平唐打」一本を編みさげるまで、ゆうに一時間はかかる。「強すぎても弱すぎてもいけない。二人の呼吸がびったり合っていなければ力のバランスがくずれひもはよじれる。渡辺さんはこう説明する。

この世界も例外ではなく、機械による大量生産で手を使ってやる人は少なくなった。しかし手編み独特の美しさにひかれて、全国各地から注文がくる。

「量産はできなくても決して手編みをやめたいとは思いません。手を大事にしたいですネー」。渡辺さんはきっぱりと言いきった。技術的な難かしさから弟子が集まらず先行きが心配されたが、今では三男の操さん（26才）が後を継ぐことになり、今渡辺さんの厳しい教授を受けている。

無形文化財にも指定されているその技法は絶えることなく受け継がれてゆくことだろう。